

左大臣語次云、故院頰腫惱給之時、檳榔子與大黃交磨傳給、有驗者、無檳榔子給遣者、

〔太平記忠臣講釋〕七昔は馬に鞍馬口、今は妻子の飼料も、かつぐ成し素浪人、矢間喜内が老病、重きが上に、庖瘡子の熱の指引わんはくも、常よりいと、いちらしく、近所の見舞相借屋の、洗濯ばさま頰赤き、猿廻しの丹兵衛、茜屋の御内義迄、紅緋の衿付賑はし、

〔源氏物語〕二木〔そのはじめのこと、すきくまくと申侍らんとて、ちかくるよれば、君もめさまし給ふ、中將いみじくまんにて、つらづるをつきてむかひる給へり、

〔安齋隨筆〕後編二つらつき。下賤の者の詞に、人の顔の様子をツラツキ、ツラカマへ、ツラタマシヒなど、云也、賤しき詞にあらず、ツラツキと云詞は、源氏物語には所々にみえたり、ツラタマシヒと云事、葉室大納言の源平盛衰記にみえたり、

〔源氏物語〕桐篋一うへもかぎりなき御思ひどちにて、なうとみ給ひそ、あやしくよそへきこえつべき心ちなんする、なめしとおぼさでらうたうま給へ、つらつきまみなどは、いとよりにたりしゆゑかよひてみえ給も、にげなからずなんなど聞えつけ給、

豐下

𩇔

〔增補下學集〕支上二、オモフクラ體、豐下

〔新撰字鏡〕面、𩇔於協反、入黑子也、波。

〔倭名類聚抄〕頭面、𩇔、淮南子注云、𩇔業反、和名面小下也、

〔箋注倭名類聚抄〕頭面、按惠久保笑陷之義、略、中原書說林訓、𩇔在頰則好、在頰則醜、高誘注、𩇔

著類上望也、修務訓、𩇔搖高誘注、𩇔頰邊文、並與此不同、此所引蓋許慎注也、按古無𩇔字、厭竿也、又一指按之曰厭、竿之轉注也、俗增作壓、然則𩇔即厭、謂𩇔之窪如一指按之、連下字从面耳、

〔伊呂波字類抄〕人體、𩇔

〔下學集〕支上二、エフホ體、𩇔